
1. 学歴

1998 年 3 月 一橋大学経済学部卒業
2000 年 3 月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了
2007 年 8 月 ミシガン大学経済学部博士号取得(Ph.D. in Economics)

2. 職歴・研究歴

2007 年 9 月 - 2008 年 3 月 カリフォルニア工科大学人文社会科学部研究員
2008 年 4 月 一橋大学大学院経済学研究科専任講師
2011 年 4 月 一橋大学大学院経済学研究科准教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

基礎ミクロ経済学(200 番台コア科目)

(b) 大学院

公共経済学, 現代経済論 I (実験経済学)

B. ゼミナール

学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学生の皆さんには、講義を通じて「教養としての経済学」を身につけてほしいと考えています。経済学は必ずしも明日の生活に役立つものではありません。すぐに景気予測ができるようになるわけではないですし、卒業生全員がエコノミストになるわけでもないでしょう。しかし皆さんが将来どんな職業に就くとしても、経済学の考え方の枠組みは思考の助けになります。

実は私は、聴衆の前に立って講義をするのが大好きです。留学中にはアメリカ人学生に対して 300 回以上、経済数学や日本語文法を講義してきました。その際、学生が自然と講義に参加したくなるよう、身近な実例を教材に取り入れるよう心がけました。本学の講義でも、学生となるべく多くのインターアクションができるよう講義スタイルを工夫するつもりです。

私のゼミでは、学生 1 人 1 人が興味を持っている社会問題について、経済学的な思考の枠組みを使って説得的な主張を展開できるようにすることを目指します。自分とは違う意見を持つ人を説得するため、どんな材料を集めたらよいか。マスメディアや官公庁が公開している資料や学術論文など、膨大な資料の中から必要なものを探し出す方法が身につくようにします。また、それらを上手く組み合わせで説得力のあるプレゼンテーションをするための、編集力、文章構成力、話し方といったコミュニケーション能力を磨くことを目標にします。

講義やゼミに関する考え方について、もっと詳しく知りたい方は私の個人 HP にあります「教育理念(日本語と

英語があります)」をご参照ください。

4. 主な研究テーマ

専門は、実験経済学、行動経済学。主に、組み合わせオークションや時間選好の研究に取り組んでいます。

(1) 時間選好に関する経済実験

人は、将来得られる大きな利得よりも、少ない利得を現在得ることを好む傾向があります。時間選好とは、現在と未来のトレードオフに直面する個人の意思決定にかかわる選好のことです。近年、経済学ではこの時間選好に関する研究(貯蓄・投資行動、退職や医療行為の意思決定、依存症の治療など)が進んできました。

私は、利得発生が遅延を現在時点でのリスクに置換する経済実験を行い、リスクと遅延の正の相関を確認しました。このようにリスク選好と時間選好の両方が同時に働く意思決定をテーマに研究を続けています。

(2) アイトラッキング(視線)

人の意思決定と視線には密接な関係があります。したがって、視線(どこを見ているか)を観察することで、その人の意思決定過程を推測することができます。また、逆に視線を誘導することによって、間接的に意思決定に影響を与えることもできるのです。この相互関係についての実験を行い、データを分析しています。

(3) 組み合わせオークション

組み合わせオークションとは、複数の財が同時に競りにかけられる競売のことで、買い手は複数の財を組み合わせさせてパッケージを作り、入札します。ひとつの財を競り落とすだけのオークションに関しては、すでに確立された理論があり、実験研究の蓄積も豊富にあります。しかし組み合わせオークションについては、理論的研究が今、まさに進行しているところです。また、実験を重ねることで理論の形を探っている段階です。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

Essays on Time Preference and Combinatorial Auctions, Doctoral Dissertation, University of Michigan, 2007.

(b) 論文(査読つき論文には*)

* "Multi-Object Auctions with Package Bidding: An Experimental Comparison of Vickrey and iBEA," *Games and Economic Behavior*, Vol. 68, March 2010, pp. 557-579. (with Yan Chen).

* "Scheduling with Package Auctions," *Experimental Economics*, Vol. 13, December 2010, pp. 476-499. (first author, with John C. Lin, Yan Chen, and Thomas Finholt).

* "Non-parametric Test of Time Consistency: Present Bias and Future Bias," *Games and Economic Behavior*, Vol. 71, March 2011, pp. 456-478.

* "Time Discounting: The Concavity of Time Discount Function: An Experimental Study," *Journal of Behavioral Economics and Finance*, Vol. 5, June 2012, pp. 2-9.

「耐震マンションを好む人はどこを見ているか: アイトラッカーを用いた研究」(齊藤誠と共著)齊藤誠・中川雅之(編著)『人間行動から考える地震リスクのマネジメント: 新しい社会制度を設計する』勁草書房, 2012 年, 207-229 頁。

「アイトラッキングの可能性」齊藤誠・中川雅之(編著)『人間行動から考える地震リスクのマネジメント: 新しい社会制度を設計する』勁草書房, 2012 年, 230-241 頁。

(d) その他

「東京都の学校選択制度」『経済セミナー』, 2009 年 4/5 月号, 85-88 頁。

「終身年金パズルの行動経済学: フレーミング効果と心理会計」『一橋経済学』, 第 4 巻, 2011 年, 79-93 頁。

「行動経済学に基づいた新しい制度設計: 住宅市場を中心として」(齊藤誠・中川雅之・佐藤主光との共著)『経済セミナー』, 2011 年 2/3 月号, 75-80 頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

"When Does the Future Really Start: Non-monotonic Time Preference"

アムステルダム大学(オランダ)セミナー, 2008。

"Eye-tracking Analysis of Bidding Behavior in Combinatorial Auctions"

セミナー: 信州大学, 岐阜聖徳学園大学, 大阪大学, 香港科学技術大学, 2008 年,

Economic Science Association(アリゾナ州 2008 年 11 月),

Economic Science Association(カリフォルニア工科大学 2008 年 6 月),

第 13 回実験社会科学コンファレンス(神戸大学 2009 年 9 月),

6h Pan-Pacific Conference on Game Theory(東京工業大学, 2011 年 3 月)。

"The effect of music listening on decision making under uncertainty: An experimental study"

Economic Science Association(アリゾナ州 2009 年 11 月)。

「社会科学における実験の意義」文部科学省特定領域研究「実験社会科学」サマースクール(信州大学, 2010 年 8 月)。

「耐震等級の視覚的評価: アイトラッカーを用いた attention の分析」

セミナー: 横浜国立大学(2010 年),

GCOE ワークショップ『行動経済学コンファレンス』(2010 年 7 月)。

「終身年金パズルの行動経済学: フレーミング効果と心理会計」第 4 回行動経済学会(上智大学, 2010 年)。

"Towards a Unified Theory of Action for the Social Sciences," 第 8 回日独先端科学(JGFoS)シンポジウム(2011 年 10 月)。

"The Concavity of Time Discount Function: An Experimental Study"

セミナー: 東京大学(2011 年 12 月),

ESA Asia-Pacific Conference (中国・厦門大学, 2011 年 12 月)。

「人を対象とする実験を行う際の倫理規定」実験社会科学ウィンタースクール(早稲田大学, 2011 年 12 月)。

"An eye-tracking analysis of willingness to pay for quake-resistance," セミナー: シンガポール国立大学(2012 年 3 月)。

「逆 S 字型時間割引関数と未来バイアス」大阪大学 GCOE『ダイナミクスと選好の経済分析コンファレンス』(2012 年 11 月 23 日)。

「視線と意思決定モデル: アイトラッキングによる分析」第 6 回行動経済学会(青山学院大学, 2012 年 12 月)。

(b) 国内研究プロジェクト

「税と社会保障の一体的改革—格差問題と国際化への対応」基盤研究(A), 2008 - 2011 年度, 研究分担者(研究代表者: 田近栄治)。

「高質の住宅ストックを生み出し支える社会システムの設計」近未来の課題解決を目指した実証的科学研究

究推進事業, 2008 - 2012 年度, 研究メンバー(研究代表者: 齊藤誠)。

「時間選好とリスク選好を統合した実験経済学的研究」若手研究(B), 2010 - 2012 年度, 研究代表者。

(d) 研究集会オーガナイズ

第 14 回実験社会科学カンファレンス・運営責任者, 2010 年 9 月 12 日, 一橋大学

第 5 回行動経済学会・プログラム委員, 2011 年 12 月 8 - 9 日, 関西学院大学

第 8 回 Economic Science Association アジア太平洋大会・プログラム委員, 2011 年 12 月 15 -17 日, 廈門大学

日本経済学会 2012 年度春季大会・プログラム委員, 2012 年 6 月 23 -24 日, 北海道大学

第 6 回行動経済学会・プログラム委員, 2012 年 12 月 8 -9 日, 青山学院大学

第 9 回 Economic Science Association アジア太平洋大会・運営委員, 2013 年 2 月 15 -17 日, 一橋講堂

C. 受賞

Outstanding GSI Award, University of Michigan(2000 人以上の講師のなかから優秀な 20 名に与えられる最優秀講師賞), 2006 年 3 月。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

入試管理委員(2008 年度)

学生委員(2011 年 - 2012 年度)

国際学生宿舍専門委員(2011 年 - 2012 年度)

社会から見た大学教育自己点検・評価部会委員(2011 年 6 月 -)

大学院奨学金返還免除者学内選考委員(2012 年 3 月)

経済学研究科評価委員(2012 年 10 月 -)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

早稲田大学政治経済学部 実験経済学 $\alpha \cdot \beta$ (2009 年 - 2012 年度)

東京大学 International Program of Economics, "Introduction to Experimental Economics," 2011 年 11 月

(b) 所属学会および学術活動

Economic Science Association

日本経済学会

行動経済学会(理事, 2011 年 12 月 - 2013 年 12 月)

Associate Editor, Economic Inquiry 誌(2010 年 8 月 -)

(c) 公開講座・開放講座

「パパの育児休業を知る・学ぶ・考える」連続講座『今、なぜ大切！？「男性の子育て」(家庭学級)』第 2 回(主催:Creo, 共催:NPO 法人ファザーリング・ジャパンおよび杉並区教育委員会, 2011 年 12 月 4 日)

「父親の育児が日本を救う！ ～育休体験をもとに～」連続講座『「働きマン」か「イクメン」か、男のワーク・ライフ・バランスを考える』第 2 回(主催:国立市公民館, 2012 年 2 月 4 日)

「眼球運動と経済行動～選択の決め手は目玉か脳味噌か～」日本学術振興会『ひらめき☆ときめきサイエンス』(2012年8月2日, 一橋大学。代表者: 齊藤誠)

(d) その他

財団法人・日本再建イニシアチブ「危機管理プロジェクト」メンバー(2012年5-10月)

財団法人・日本再建イニシアチブ「失われた20年」リサーチチーム(2013年1-9月)

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

文京区コミュニティバス(B-ぐる)研究会副会長(2008年4月 - 2009年3月)

文部科学省特定領域研究「実験社会科学」専門委員会委員(2008年12月 - 2010年1月)

文京区子ども読書活動推進計画策定検討委員会委員(2010年7月 - 2011年1月)

文部科学省特定領域研究「実験社会科学」専門委員会委員(2010年12月 - 2011年11月)

法務省司法試験予備試験審査委員(2011年度, 2012年度)

9. 一般的言論活動

「リターンと機会費用で考える」『日経ビジネスアソシエ』, 2008年6月3日号, 35頁。

「行動経済学の最先端を切り開くコリン・カメレール教授に聞く(インタビュー記事)」『日経ビジネスアソシエ』, 2008年7月15日号, 20-21頁。(http://business.nikkeibp.co.jp/article/nba/20080710/165052/)

「特集 ニッポンの最先端は、ここにあります。“実験経済学”が経済学を塗り替える」『GQ JAPAN』, 2008年10月号, 56頁。

「特集 実験経済学がわかる 教室実験をやってみよう! : ゲーム理論への誘い」『経済セミナー』, 2008年10月号, 20-24頁。

「連載: はじめての実験経済学」『日経ビジネスアソシエ』, 2009年1月-7月(全12回)。

フジテレビ「新報道2001」, 経済問題へのコメント, 2009年3月29日, 4月12日, 6月7日。

「気鋭の論点: 耐震性に付加価値あり マンションと行動経済学」『日経ビジネス』, 2011年1月31日号, 78頁。

「「年齢別選挙区」で子どもの声を政治に生かせ ドメイン投票より現実的。若さに応じて議席配分を」『日経ビジネスオンライン』, 2011年6月6日。(http://business.nikkeibp.co.jp/article/manage/20110531/220334/)

特別講演「パパの育休が必要なコレだけの理由」シンポジウム『育休法改正で男性の育児参画はどう変わったのか?』(主催: NPO 法人ファザーリング・ジャパン, 特別協力: 厚生労働省イクメンプロジェクト, 2011年7月26日, 東京都文京区)。

インタビュー「若者の意見をすくい上げる政治とは 論客2人に聞く C世代駆ける 番外編」日本経済新聞電子版, 2012年3月31日。(http://www.nikkei.com/article/DGXNASM330003_Q2A330C1000000/?df=2)

「「年齢別選挙区」で子どもの声を政治に生かせ ドメイン投票より現実的。余命に応じて議席配分を」『新しい経済の教科書2012』, 日経BP社, 44-46頁。

ワールドビジネスサテライト特集「一票の重み」にもうひとつの格差, 世代間格差にコメント, 2012年5月31日。

" Anti-ageing Treatment for your governance: Proposal for National Election System Based on Constituency by Life Expectancy, " *Economy, Culture & History JAPAN SPOTLIGHT*, May/June 2012, pp. 21-23.

「早稲田大学で話題の講義! 竹内幹先生に「実験経済学」を学ぶ」星海社『ザ・ジセダイ教官 知は最高学府にある第3回』2012年6月25日・7月25日。(http://ji-sedai.jp/special/kyokan/TakeuchiKan_01.html)

「景観論争から考える「良い経済学、悪い経済学」法律の「正義」と経済学の「正義」の違いとは」『日経ビジネス

オンライン』, 2012 年 7 月 31 日。(http://business.nikkeibp.co.jp/article/manage/20120727/235029/)

"Donation Culture Becoming Established in Japan through *Kizuna* after 3.11 Earthquake, " *Economy, Culture & History JAPAN SPOTLIGHT*, November/December 2012, pp. 42-45.